

## 平成30年度 第1回学校評議員会の報告

- I 日時 平成30年 7月 4日(水) 10:00～12:40
- II 場所 本校会議室
- III 出席者 学校評議員
- A評議員 (交流学校長)
  - B評議員 (地域行政区民)
  - C評議員 ( " )
  - D評議員 (福祉・行政代表)
  - E評議員 (関係機関代表)
  - F評議員 (本校PTA会長) 以上 6名
- 学校職員 校長、副校長3名、事務長、総括教務主任、  
小学部主事、中学部主事、高等部主事、寮務主任  
相談支援部長、進路指導主事 以上 12名

### IV 学校評議員会

#### 〈委嘱、開会〉

- 1 委嘱
- 2 校長挨拶 (委嘱も含めて挨拶)
  - ・ 学校評議員制度は15年目、地域社会に開かれた学校づくりを目指している。評議員の方からご意見等いただきながら学校経営に生かしていきたい。
- 3 出席者紹介
  - ◎ 学校評議員 校長から紹介
  - ◎ 学校職員 自己紹介
- 4 日程説明
  - ◎ 副校長から、日程の説明

#### 〈授業参観〉

- ◎ 学部主事の案内で、小学部、中学部、高等部の授業参観、及び寄宿舍を見学

#### 〈学校評議員会〉

- 1 開会
- 2 平成30年度学校経営について
  - (1) 平成30年度学校概要、学校経営方針について
    - ◎ 校長より資料(P.12)及びスライドで学校概要、学校経営方針について説明
    - ・ 学校改革として、多忙化解消(県のモデル校)に取り組み、新学習指導要領を受けて来年度に向けてカリキュラムマネジメントを構築する。
  - (2) 平成30年度各学部等経営方針について
    - ◎ 学部主事より、スライドで今年度の目標と学部の取組について説明
    - ◎ 寮務主任より、寄宿舍の説明
    - ◎ 担当副校長より各分教室の説明
    - ◎ 校務分掌については、資料参照(P.7)
  - (3) 平成30年度入学・転入学者の状況について
    - ◎ 総括教務主任より、資料をもとに説明
  - (4) 平成29年度進路状況について
    - ◎ 進路指導主事より、資料をもとに説明
  - (5) 平成29年度特別支援教育センター部の支援状況について
    - ◎ 相談支援部長より、資料をもとに説明(部の名称変更も含めて)

### 3 質疑及び提言

#### 【A評議員】

◎ 授業の参観と説明を受け、日常の様子が分かった。それぞれの発達段階に応じて指導していること、「自立と共生」に向かって学校経営していることが理解できた。先日の運動会に参加して、特に中学部の生徒が中心となって頑張っていた印象をもった。

Q 自立と共生、社会との共生コミュニケーション能力を育てるための施策、手立てとは？

A 個別の指導計画や教育支援計画を立てて授業している。児童生徒にとって意味のある言葉だったり、身振りだったり、視線などを取り入れて指導している。働く力などに関わって、挨拶や報告など学校外の人ともコミュニケーションできるように指導している。

Q 就職9名について、生徒の能力によるのか、保護者の考えか、

A 高等部2、3年生は、年2回の現場実習を実施している。一般企業や福祉サービス事業所で、生徒の実態に応じて設定している。一般就労の場合は、定期実習の他に長期休業中などの随時実習を積み重ねている。生徒の身についている力、保護者の考え、企業の理解が必要である。

Q 太田小学校から交流学習で訪問する場合、どのような内容を希望しているか？

A 年に1回の交流は、当日のイベント行事で終わるため、お互いをもっと知るといふ点で課題がある。具体策を一緒に検討していきたい。

Q 挨拶の指導はどのようにしているか？

A 将来に向けて、挨拶を大切にしている。中学部や高等部は、生徒会執行部が登校時に挨拶運動に取り組んでいる。職員室への入退室の際も挨拶の指導をしている。高等部は作業学習の際も指導場面を設けている。

#### 【B評議員】

Q 資料のP.3やP.8について、障がい者数は年代により大きく変わるわけではないと思うが、支援学校以外にどのような形で生活しているか？

A 小学校6年生については、教育相談を通じて、支援学校に進学する児童もいる。最初から小学部を選択するケースもある。現在は制度や基準が変わり、「インクルーシブ」という考え方が浸透してきていて、通常の教育を受ける権利があるが、保護者の希望などをふまえた就学支援が行われた。

#### 【C評議員】

Q 地域との関わりという点で、「道の駅」が太田と笹間の境（13号線沿い）に2年後設置予定であるが、花巻清風支援学校の生徒が作った製品の展示販売など様々なことを提案したいと考えている。製品を販売した収益はどのように扱っているのか。

A 作業学習の一環で製品づくりをしている。販売収入のほとんどは材料費に充てているので収益はほとんどない。ただ、生徒の励みになるように、納めの会などの時に、ご馳走を用意して、1年間の労を労うことも行っている。販路が少ない状況があり、「道の駅」でもぜひ販売させていただきたい。

#### 【D評議員】

◎ 多忙化解消も大変かと思うが、先生が元気であると子どもも元気なる。学校の様子を見たが、それぞれの発達に応じた教育がされている。行政として、生徒が進路選択できるように支援、連携していきたい。

#### 【E評議員】

◎ 授業を見て、その子に合った対応をしている。小学部の音楽の授業では、相手に触ることが苦手な生徒がいるのではないかと思うが、そういう子にとっても改善に効果的

な授業であったと思う。

Q 余暇活動は難しいと思うが、ある程度、一人で過ごせなければならない。どのように考えているか？

A 学校は学ぶ場である。将来を考えた時に、一人で過ごすスキルは重要である。ただ、そこを目指して各学部授業を展開しているわけではない。高等部は現場実習があり、どの生徒もその点が課題となっている。

また、発達段階が大きく違うので、一人で過ごすことが難しい生徒もいる。卒業後のことを考えると大切なスキルであるので、一人で過ごすことができればよいが、難しい生徒には手をかけている。安全を考えると保障しなければならない。

高等部のチャレンジ学習は、自分で選択することを大事にしている。生徒の様子を見ながら個別対応している。

寄宿舎は、個別の部屋でもあり、一人で過ごせるようにしている。

Q 今日のように暑い時、かわいそうかなと思う。エアコンを取り付けることはできないか？

A 引き続き、全教室への設置を要望している。

#### 【F 評議員】

◎ 学校の先生方は、一斉でも個別でも、児童生徒に合った、寄り添う教育、工夫をして取り組んでいる。教師は熱心である。

◎ 進路の選択について、一般就労でも福祉サービス事業所でも、その子が安心して一日を送ることを基本としている。報酬などに違いはあると思うが、それよりもこやかに生活してほしい。充実感をもって生活してほしい。そして、そのような場所を増やしてほしい。安心して、自分のできることを達成できる進路を、力を借りながら見つけていきたい。

Q 保護者とすれば、販路拡大のチャンスがたくさんあるとよい。廊下に飾っている製品を、常時買うことができない。ディスプレイを外側（校外）にすることはできないか？お世話になっている方（学校）には恩返しをしたい。

A 一日市での「市」に生徒の作品を出品して展示販売させていただいている。

#### 【校長から】

- ・ 社会に開かれた学校づくりとして、「道の駅」などで地域とともに社会に向けて発信したい。学校の存在を「福祉」の対象という見方から、「地域の役に立つ存在」に変えたい。販路拡大や常時販売、発注のシステムなど、社会とつながる方法の開拓に取り組んでいきたい。
- ・ 余暇活動について、キャリア教育の概念が「ワークキャリア」に傾いているが、その先の「ライフキャリア」にシフトしたい。
- ・ 今の学校生活を共生社会にしたい。そのために、今までの学校の概念ではないカリキュラムを考えていく。皆さんからのご意見の中にヒントが隠されていると思う。これからの学校経営に生かしたい。

#### V その他

特になし

#### VI 閉会